

さざなみ

〈ミッション〉 私たちは、自閉症を中心とした知的障がい者の明るい未来を開くため、総力を上げて支援を行います。

〈ビジョン〉 豊かな自然の中で、社会に生きる障がい者の良きパートナー（隣人）として、利用者とともに歩み続けます。

東急デハ3455修繕完了

さざなみ前号・前々号でご案内させて頂いたクラウドファンディングプロジェクト「東急デハ3455 戦前に製造された貴重な車両を未来に残したい！」は令和6年1月15日、当初の目標額330万円を大きく超える、総額673万5千円で公開を終えることが出来ました。これもひとえにデハ3455を愛し、いすみ学園を応援して頂いた皆様のおかげと改めて感謝申し上げます。ご寄付を頂いた人数も354名と沢山の方にご支援と共に応援メッセージを頂きました。どのメッセージにも心が熱くなり、期間中はとても励まされました。そして公開期間が終わったと同時に大幅なご支援増額にお応えするため、更なる高みを目指して修繕内容の精査を進めました。ご支援者の皆様・プロジェクト御協力者様の期待や助言を以て、現役時代のボディカラーに復刻させたり、車内も扇風機のレストアをしたり、最終的にはヘッドライト・尾灯・警笛復活にまで至りました。お披露目会・写真撮影会に参加のご支援様をはじめ、多くの方に大変喜んで頂き、私たちもクラウドファンディングで修繕に踏み切って本当に良かったと感じております。

前号でもお伝えしましたが、今回のプロジェクトは多くの方達に支えられ成立しました。皆様のお力添えがなければ成功することはあり得ませんでした。改めて“緑”という言葉の大切さを実感し、皆様に応えようと奔走した9か月間でありました。今後も「デハ3455が繋いだご縁」に全力でお応えすることを約束し、感謝の言葉とさせていただきます。（事務長 長沼 毅）



クラウドファンディング協力者名簿

田都くん・谷島慶彦・福本聡・土屋・
 デルマノ・クラフト・今成健・佐藤元
 明・杉山淳一・鈴木仁一・(医)千寿会
 ちはら歯科医院院長／本間輝章・青木
 雄太郎・杉本昌樹・石川和弘・(株)ナン
 カイ・ポッポの丘／村石愛二・Okk
 e・谷直樹・天野秀樹・中村聖人・鈴
 木聡・ゆつぴー・加藤卓・三上さわか
 ・三上るな・Tomli9・藤間幸雄
 ・Su'z works・吉村知晃・吉村弓子・
 世田谷総合車輛センター・石井安信・
 庄子雅人・濱田譲治・濱田奈緒美・菊
 井敏和・會津みどり・岩瀬美南海・そ
 ー・中村泰輔・久保田英之・伊山理枝
 子・(株)ANSWER・佐藤誠・オオシ
 マAKIRA・583系食堂車保存会
 ・さとにゅ・東急(株)有志・こぶぐの
 缶バッヂ屋・福原康英・aikouのう
 た・川口浩司・揚げとり・よこやまひ
 でまさ・西野健・野村浩一・(株)ストラ
 テジック・中山しげき・安藤真紀子・
 MIZUHO YAYOI・相原賢実
 ・原田俊介・成田良幹・渡邊剛清・高
 橋良幸・ブルーローズ・(二社)ウエル
 フェアラボ・かわさき 理事長 飯干
 順正・ぼおだふおん2023・平岡大
 作・しげる薬局・KOJIKOJI・
 HirotaKa・土田修二・松本圭
 史・金城正浩・竹中毅・大原俊二・高
 田大輔・あびこたかよし・111・村
 上武・北谷一雄・佐藤正和・山本典昭
 ・磯野吉彰・大木一史・早川・皆川裕
 子・高野和史・菊池友仁・益子真治(ハ

まちどり)・下川路守宏・アイテック
 ・山田孝仁・M Kobayashi
 ・鳥山敏和・長野光芳・あさひシーサ
 イドコテージ・kawasumi・豊
 村幸夫・豊村慶子・聖也・重田真幸・
 (有)石野薬局・めめこ・渡邊悠太・伴野
 博海・ビューティ・セゾン・入江亜
 紀子・入江由紀子・天野健治・西内保
 子・川原田康高・渡邊正樹・秋葉照弘
 ・若林謙・marimasa・山口雅
 之・内田駿之介・伊藤晴子・刈込俊祐
 ・津倉正浩・高橋康弘・佐藤里子・西
 山英史・和田潤・買取日本橋麒麟堂・
 今井信繁・米丸啓子・米丸稔・福本正
 之・中村ヤエ子・筒井昭子・辻村邦康
 ・細谷雅子・木澤透・鈴木次郎・鈴木
 啓子・後藤健一・津谷芳嗣・west
 ・ISONO・寺尾隆・(株)米本工務店
 ・若林和子・(有)いたみや・(株)第一エレ
 クトロニクス・(有)岬サービス・飯塚啓
 史・中村悠造(三鉄ものがたり)・木
 下英男・林牧人・めめちゃん・原井利
 明・相澤博・松浦大樹・正栄産業(株)
 ・古屋明・神保電器(株)・石川隆三・大貫
 喜美子・今井寿美男・小池達・山崎和
 也・宮田敦彦・西村和子・實方悦子・
 KAZU・森健いすみ・武井一雄・毛
 塚泰元・(株)メラマック千葉営業所・日
 本アサヒ機工(株)・海鮮浜焼き海老屋
 岩瀬秀仁・諏訪吉紀・井口健太郎・(株)
 東昭建設・関理仁・益田英則・石川和
 弘・(株)創建長嶋・(株)トイエイ・Naoko
 Watanabe・松谷健司・

いすみ市
 つるごと納税
 地域の魅力を伝える
 御礼品として全国に発信



大地のめぐみセット
 寄付金額12,000円



QRコード
 (さとふる)

渡邊洋子・平野悟・岩崎陽子・山道浩
 司・水谷淳・池田周平・osamu
 hyodo・斉藤実・土屋峻平・土屋
 紫陽花・増田秀則・北風和夫・小峰智
 之・五十嵐正一・食堂車北斗星・船木
 弘光・永野市子・岩田正明・芳賀雪枝
 ・竹内辰典・高木はるみ・中江敏雄・
 デーブ河野・鈴木晃・いすみ郵便局長
 ・村上一弘・石川恵一・永田直哉・渡
 邊電設・(株)ビーアイエー・板橋直樹・
 金順寅・(株)トレジャータウン・荒木義
 之・千田洋次・廣部雅彦・たかはしせ
 いすけ・渡邊万皓・櫻井利昭・深堀希
 ・猫急・ノン・加藤修平・栗原良介・
 二階堂陸・野田悟・すずきしんすけ・
 土橋陽子・藤本研治・吉田賢一・小川
 昌宏・中村裕明・りあちゃん・国分大
 地・渡辺健太郎・ゆいな・加藤利一・
 川瀬修一・秋山隼也・中村哲也・北井
 智也・近江良太・田辺印刷(有)・藤江裕
 ・川端佐知子・中野サヨ子・池内孝行
 ・鶴野瑞穂・ごうき・掲載不要11名

いすみ学園主要行事
 感染症対策等で変更する場合があります。
 ます。ご了承ください。

3月9日(日)	面会日
2月20日(木)	歌の祭典
6日(月)	新年会
1月2日(木)～4日(土)	一時帰宅
27日(金)	ケース会議
20日(金)	クリスマス忘年会
13日(金)	ポーナス外出
12月8日(日)	面会日
11月22日(金)～24日(日)	一時帰宅
10月26日(土)	槇の里祭
9月15日(日)	面会日
15日(木)	花火大会
11日(日)	ケース会議
8月11日(日)～13日(火)	一時帰宅
7月25日(木)	夏祭り
14日(金)	ポーナス外出
6月9日(日)	面会日
5月3日(金)～5日(日)	一時帰宅
4月14日(日)	面会日

学園創設40周年を迎えて

社会福祉法人 榎の里 理事長 岡部 一 邦

今年も学園の桜は見事に咲き誇りました。

クラウドファンディングの支援金によって、往時の姿に蘇った東急電車の緑とのハーモニーで、春爛漫を演出してくれました。

春は「出会いと別れが交差する季節」でもあります。学園でも井上支援課長が退職し、軽込課長補佐が後任に就任しました。

井上さんの在職期間はコロナ禍と重なって、感染予防と感染者の看護に追われて、彼が思い描いていた実践は実現できなかったのではないかと思います。ですが、郷里熊本での新たな活躍を祈念いたします。

軽込支援課長には前任の思いを受け継ぎ、支援体制の充実に向けてリーダーシップを発揮してくれることを期待しております。

ところで、学園は今年で創設40周年となります。

この節目の年に当たって、次のような記念事業を計画しております。

先ず「お祝い会」ですが、コロナ禍の動向が心配なこともあり、利用者の皆さんを中心に、保護者の皆さんと職員とで、日頃お世話になっている方々をお招きしてごく内輪でのお祝い会にいたします。

次に「記念誌」は、前回の30周年後の10年間の実践記録として、トピック的な出来事や取り組みについて、次の時代に伝えていく視点で、取りまとめたいと考えております。

ところで、障害者支援施設を巡る環境は、大きな転換点を迎えていると思います。

国は、障害者支援施設における自立支援機能の強化を図り、利用者の地域移行を進めるとともに、施設の入所定員を計画的に削減していくとしております。

学園においても、40周年を期に、これまでの実践の成果を確認し、国の方針を踏まえて、今後どのような方針で施設運営に当たるのか、大いに議論して道筋を定めていきたいと思っております。

4月2日は「世界自閉症啓発デー」で、東京タワーをはじめ全国の施設が、シンボルカラーの青色にライトアップされました。

私達も、利用者の笑顔を守るため、「全員処遇」のチークワークで頑張っている支援活動を通じて、障害者理解の促進に努めて参りますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。



新年度を迎えるにあたって

支援課長 軽込 進 一

いすみ学園の坂道の桜は例年であれば三月中旬過ぎには咲き誇るように美しく彩りを添えてくれるものですが、今年の蕾は今までになくゆつくりと準備をしているようです。新年度を迎える前任の井上課長の勇退に伴い、軽込が支援課長となりました。桜の蕾ほどではありませんが、ゆつくりじっくりと利用者支援の充実に向けて行きたいと考えています。

さて支援課長を拝命することになったから様々なことに耳を傾けてきましたが、その中で今後の支援の在りようを考えさせられることがありました。現在障がい者福祉の分野ではTEACCHや応用行動分析などと言った理論適用が次々に打ち出されています。そのこと自体は悪いことではありませんし、科学的・理論的に障がい者療育をなしていくというのは世界的な風潮でもあります。しかしながらともすれば科学的というのは人間的と言うことは少し違ってしまう懸念もあると思うのです。先日学園の会議室で執務をとっていた時に、とある一冊の本が目にとまりました。それは学園紀要にも載せられている小杉長平先生の「すぎなの丘にて」という小杉先生が日常の在りようの中でのエッセイを集めたものでした。概要は省きますが、小杉先生

がいかに寮生たちを人として愛し育てていったかという軌跡が描かれていました。また教育者、福祉人としての悩みも今を生きる私たちと大きく隔たっているわけではないと言うことにも気づかされました。

現在脳科学の発達は著しく、ブラックスボックスに等しかった脳機能の大半は予測可能な療育となりつつあります。しかしそのような時代に生き、特殊な知識を有している我々は、そういった知見を持つていなかった古人の知恵に匹敵するものを果たして持っているのでしょうか。かつて糸賀一雄先生は「この子らを世の光に」と社会に問い、十亀史郎先生も「自閉症を自閉症として見ているうちは人のことは分からない」と言ったそうです。これらは過去の文言ではあっても、現在のノーマライゼーションや共生社会、合理的配慮に合致する考え方です。

いすみ学園にも同じように初代の原井園長から続く福祉と障がい者療育の理念があります。毎年年度当初には施設長による職員研修で「学園の理念研修」が行われています。私も同様に今までの歴史を大切に、保護者や利用者職員が大事にしてきたものをおかみしめつつ今後の現場を支えて行きたいと思っております。

各作業班の紹介

【外作業班】

桜の花も例年より開花が遅れ、ようやくちらほらと花が咲き始めた中、今年度がスタートしました。今年度の体制は、長年外作業班で頑張ってきたKさんが、高齢の為、万木工舎に異動となりました。

そして新たに入職した皆川さんが外作業班に加わり、作業班の平均年齢が少し若返りました。今年度も地域社会からの信頼を大切に、万木城整備や広域農道の植栽事業を利用者と共に目指して行きたいと思えます。また昨年の学園祭で好評だった、さつま芋の販売をさらにバージョンアップさせ、近隣の保育園児にも収穫体験を楽しんで貰う企画を立ち上げ、準備を着々と進めていますので、次の機会に紹介できたらと思います。

(統括主任 田邊 清万)



【地域活動班】

令和六年度を迎え、外作業班はメンバーは変わりませんが、外作業B班が「地域活動班」と名称が変わりました。これから広域農道の花壇作業、行川の第一計器の除草作業、いすみ警察署の除草作業、勝浦市の水産加工会社の(株)西川からの依頼で、袋のシール貼りなどを中心に行って行きます。ですが、外作業班が大変な時には手伝いますし、地域活動班が大変な時には外作業班にも手伝ってもらいます。お互いに協力し合って行きたいと思えます。今後の予定を少しお知らせすると、四月は行川の第一計器の除草作業になります。その後は農道花壇に入り、菜の花が終わり、ジニアへと変わって行きます。いすみ警察署の除草作業は、日程は未定ですが年二回行います。これから作業のしやすい気候になって来ます。より良い仕事をして、いすみの皆さんに信頼されるように頑張っていきたいと思えます。また、怪我や事故に気を付けて行きます。最後に、地域活動班の今後の活躍に期待して下さい。

(支援員 三上 慎一郎)



【万木班】

介護・準介護班としての位置付けである万木班ですが、どこの作業班よりも元気さは負けません。身体機能維持のための運動、さおり織、刺し子、ちぎり絵、牛乳パックのハガキ作りを主に行っています。特にちぎり絵は、学園内の行事ごとにポスターを任されています。今年度もどんな作品が出来るのか、是非お楽しみに。四月から職員も利用者も新たなメンバーが加わり、一層パワーアップした万木班をよろしく願います。

(支援主任 吉田 友希)



【石けん班】

今年も桜の季節がやってきました。三月に入って寒の戻りで、都内では三月二十九日に開花となり、桜の見頃が四月上旬だと言うニュースがありました。巡りゆく季節を感じる今日この頃です。

さて今回は普段あまり意識しないことかもしれませんが、石けん作りには

欠かせない一例についてご紹介したいと思います。その一つが薪(端材)です。日々何気なしに燃やしていますが、実は近隣の工務店さんのご厚意によっていただいているものなのです。石けん作りの仕上げの際には強い火力が必要で、薪がなければ、その強い火力を生み出すことはできません。また廃油も同様です。現在給食センターや支援学校から無償で回収させていただいていますが、廃油がなければ我々自慢の廃油石けんを生産することはできません。些細なことかもしれませんが、薪や廃油が無かつたら石けん班は成り立ちません。死活問題です。その一つ一つの点が線となつて初めて石けんが完成するのです。改めて考えますと、本当に感謝でしかありません。その点を思案することも大切なことだと思います。ともあれ、令和六年度も石けん班、引き続きご愛顧のほどよろしくお願い致します。

(支援主任 屋代 精一)



【食品加工班】

今年度、食品加工班は利用者十名、職員五名でスタートしました。職員も利用者もメンバーの入れ替えなく昨年度と同じ顔ぶれで日々楽しく賑やかに取り組んでいます。



今回は加工班の一年間の作業内容を紹介します。春は夏みかんやいちごの処理、六月にはらつきょうやブルーベリーの処理や学園敷地内の梅の収穫と処理を行います。夏の間は学園の畑で外作業班が育てた胡瓜の処理が続きます。秋になると各所で行われるイベントへの出品準備に追われ、十一月に入るとりんごの処理、一月からは味噌作りが始まります。近隣の直売所の他、様々な所へ納品があり、商品作りは一年通して行っています。お中元やお歳暮の時期は更に大忙しです。

年間を通して様々な作業があつて大変ですが利用者の皆さんも慣れた様子で作業に取り組んでいます。毎日こうして元気に商品作りに励めるのも、学

園の商品を求めて下さる皆様を始め関係する周囲の方々のご理解とご協力があつてこそです。

昨年度にはクラウドファンディングで多くの方々の繋がりを実感しました。今年度も皆さまとご縁と感謝の気持ちをお大切に、商品作りに取り組みたいと思います。

(支援主任 岩瀬 祐三子)

【グループ実習班】

「やつと、やつと」の令和五年度が終わり、六年度がスタートしました。昨年は五月に新型コロナウイルスが第五類に移行した事に伴い、学園においても様々な行事が解禁となりました。



グループ実習班についても、この四年間利用者さんには様々な我慢を強い事になり、美味しい物を食べに行こう！旅行に行こう！等、せっかく働いて貰った謝礼金も、自粛生活の日々で活用ができず、働く事の意味を忘れてしまうのではないかと一抹の不安が

ありました。働く理由は人それぞれだと思いますが、やはり結果が形として表れなければ、我々であっても労働に對するやる気が無くなってしまうと感じます。その為どうやって仕事に對するモチベーションを保たせるかが課題となった期間であつたと思います。しかし昨年度「やつと」班旅行や行事等が再開し、謝礼金を活用する事が出来るようになり、働く事に対する喜びを改めて共有する事ができました。令和六年度は、さらにQOLの向上を図り、「働くことの楽しさ」を分かち合える一年にしたいと思います。

(統括主任 片岡 彰則)

班旅行

外作業B班

「さくら山」を散策、成田空港や飛行機をバックに記念撮影。空港が近く飛行機が飛ぶところを間近で見えて笑顔だった。宿泊する「いこいの村 潤沼」へ。懐石料理を皆で楽しみました。



【生活班】

新緑のいすみ学園の坂道を上る出勤風景が好きです。生活班の八木と申します。昨年度より、生活班三名は、支援員となり、利用者の皆さんと接する機会が少し多くなりました。ポーナス外出に一緒に出掛けたり、移動支援、見守り等をさせて頂いております。棟内清掃や居室整理・体育館・美術館・コスモスの家・職員宿舎も行う他、アイロン掛けや衣類修繕等、バタバタと動き回っております。至らない所も多々ありますが、何かご要望等ございましたら遠慮なくお申し付けください。

(八木 三枝)

万木班(日帰り)

勝浦ビッグひな祭りにて等身大のお雛様と記念撮影。すまし顔でできました。

お昼は大原の128にてハンバーグ・チキンドライア・パフェをお腹いっぱい食べて満足した一日となりました。



「第一回紅白歌合戦」開催

去る令和六年二月二十二日(木)午後、いすみ学園交流ホームにおいて、「第一回紅白歌合戦」が開催されました。昨年度においては、作詞作曲家のたきのえいじ先生より体調が芳しくないため、前年度で最後にしたいと申し入れがあり、利用者の方、職員のみでの開催になりました。保護者の皆さんの参加がなかった事は、とても残念そうな様子が窺えましたが、行事としては実施することができました。



紅組白組に分かれるという初めての試みで、手探り状態のなか、準備や練習期間が少なく不安はありましたが、利用者の皆さんは、本番に強く、「第一回紅白歌合戦」を盛り上げてくれました。太鼓クラブの演奏や、応援合戦、

各々持ち味を生かした選曲の他、衣装や小道具等の演出にも工夫が凝らされ大いに盛り上がりました。



保護者会からのおやつもとても喜んでいました。皆さんの温かい思いが行事を支え、楽しい時間を作り上げてくれました。ありがとうございます。

(歌の祭典担当 小高 由希子)



DWAT災害派遣

令和六年二月二日から一週間、千葉県DWA T災害派遣チームの一員として、石川県に行ってきました。配属先は七尾市の和倉小学校避難所。テレビ報道が多かった輪島市や珠洲市の下に位置し、能登半島の玄関口と言われる和倉温泉がある所でした。体育館一面に四角いテントが並び、避難者は約七十名。断水で不便な生活なのですが、想像していなかった活気を感じました。

一般避難所なので、仕事に行く人・学校に通う生徒・共有場所です。高齢者・話を聞く民生委員・暖房管理を率先して行う人等、避難所の中に地域社会があるのです。その為、住民の暮らしを尊重しつつ、他の支援チームと協力して必要な支援(コロナ陽性者の対応・体調不良者のバイタル測定・障がいを持つ人や高齢者の見守りと支援・要望に合わせた掲示物の作成や物資の補充等)を行いました。

また、期間中は近くの小規模避難所の巡回も行いました。同室者や事務所の人も高齢者や障がいのある方を気にかけてくれ、人と人とのつながりの大切さを実感しました。

チームの仲間にも恵まれ、関わった方々にも刺激を受け、貴重な経験をさせていただきました。参加させていただき、ありがとうございました。

(課長補佐 鈴木 典子)

強度行動障害 支援者研修を終えて

昨年度一年間をかけて、強度行動障害について学び、三月九日には、実践報告会として千葉県教育センターの大ホールにて発表を行いました。

研修では、強度行動障害のことだけではなく、TEACHや応用行動分析学、ファシリテーションなど様々な事について学び、利用者、個人個人に合った支援の大切さを改めて知ることが出来ました。また、最後の発表では、対象の利用者の方に行った支援内容とその結果を発表し、沢山の人の前で話すという貴重な体験を経験することが出来ました。

今後は、研修で学んだことを活かし、支援に反映できるよう、自分自身のスキルアップをしていきたいと思います。また、適切な支援を行い、利用者の方々が今以上に暮らしやすく、のびのびと生活出来るように努力していきたいと思っています。

今回の研修で、支援や発表で、アドバイスしてもらった職員、協力をしてもらった利用者の方にはとても感謝しています。(支援員 末吉 武司)





令和五年四月から令和六年三月までの間に御寄付を賜りました「後援会会員」の皆様の御芳名を記載させて頂きます。ありがとうございます。紙面の都合上、敬称は略させて頂きます。

五十嵐正一・菊地一雄・小川清敏・銅谷勝子・西山光江・原井洋子・南澤恒男・原井利明・末清節子・高田芳允・土肥真・小田嶋勉・稲葉伸子・飯田香・天野真弓・江幡誠・(株)東昭建設社長齊藤晴夫・西村秀美・大塚克行・久保喜平・渡部勇・齊藤嘉津代・会田操・赤嶺淳一・泉富夫・泉洋子・大石担・勝俣洋子・北本三千代・志水嘉明・中村好秀・木造育代・吉田みつ子・中川美津江・市川洋子・落合邦行・牧千代子・三室玲子・伊藤典子・谷島章彦・喜屋武隆一郎・佐々木辰雄・北方政實・土田修二・末吉由子・仲佐明宏・岩崎陽子・岩崎アイ・中谷利一・飯島せつ子・若月ヒロ子・川端佐知子・遠藤進・森和子・森孝子・中野光夫・湯上宏子・花光智恵美・花光英和・高垣千代・森勝・亀山紀子・相沢雅代・伊藤明男・大谷光弘・甲斐友美・桐生慶子・坊垣勝彦・横井葉子・山本和弘・杉山尚浩・鈴木翠・芳賀竹志・水戸部

章・栗山尚久・横田ゆうこ・辻祐樹・中西宏仁・高橋昌也・中野達夫・清水孝・高尾美幸・関口達重・高橋茂子・関口いせ・小俣光弘・瀬田武久・山樹文子・齊藤恵子・高橋マリ・齊藤絵理子・麻生実・川野和永・苺米與工門・苺米豊・石井恵美子・関芳弘・長田重孝・長田恵子・黒川信行・中村篤司・杉山秀樹・星田健二・永野悦子・斉藤明美・榎下順子・福本聡・愛川久子・尾科弘臣・中村文子・須田博子・木瀬三佐子・高橋節子・竹田千亜子・池田博樹・(有)池田金物店・土淵るり子・土淵精一・小泉真理子・栗原小絵子・生方里江子・細谷雅子・日柄幸子・石田節子・田中一・重田真幸・佐々木幸雄・戸沢康弘・宿沢修・若林道子・矢澤千里・高沢文子・松島弘美・清水潤二・桐澤里津子・斧輝代・小野英子・木村奈津江・松戸裕子・川名教子・沼志賀子・永江保幸・岩橋圭子・岩間美由紀・若林和子・小林美和・清水弘・清水千代子・高梨寿美枝・清水裕・川本雅巳・清水從子・清水信之・齊藤誠司・猿渡まり子・星野参郎・高梨悟・卓初子・小林富次郎・松田美津子・後藤健一・後藤洋子・木野慶治・津倉京子・清水良憲・甘利紀子・岩澤廣元・池田瑞枝・金原市郎・鈴木たま子・後藤明子・平松金三・桐谷佳雄・益田英則・益田美代子・早川恵子・益田和也・今堀亨子・江尻和子・江尻尚樹・江尻全機・吉澤恵美子・中村敬・中村ヤエ子・近藤和義・上野梢・岩本菊子・林慎子・米丸啓子・米丸孝・石川隆三・

辻村邦康・白川康子・白川均・和座勝郎・高山純子・和座敬子・宮田茂・大原俊二・大原夏子・小野正夫・星芳・大原麻紀子・小泉千寿子・松中研一・松中紀子・松中耕二・小林章子・田澤明男・村野主税・権田孝・土井由起子・山之内玲子・伊藤恵子・篠原学・黒沢秀雄・月岡順子・古屋修・杉本ふみ・古屋香代子・新藤千香子・西澤敦子・豊村幸夫・並木紀子・(株)ビーアイエー・神保電器(株)・塚原光江・山地純一・實方悦子・(有)松本設備工業・鈴木光治・(株)新清ハイツ・渋谷照子・齊藤実・池田周平・池田由美子・細井好・長良幸男・瀧島幸子・原耕一・高山商店高浦伸芳・北山静香・中森明子・西内恭子・桐生慶子・石井千賀子・大木和斗

『創立四十周年記念碑建立』
保護者会長 谷島慶彦

四月十四日は、初夏の陽気の中晴れやかな一日でした。いすみ学園入口の程近い場所に、創立四十周年記念碑を保護者会で建立しました。坂道の桜が散る中、学園幹部の方と保護者会幹事が除幕の紅白の綱を引くと、台座に立つ一メートル程の記念碑が現れました。石碑の上部に「愛」という字を掲げ、その下に「優しさと思いやり」の字を刻んだ石碑は、



清々しく感じられました。愛は、人との触れ合いの中で大変必要なので、言い換えますと学園利用者と支援職員の触れ合いの中でも大変必要なものと思われまます。又その基に有るのが「優しさと思いやり」であり、学園のフレーズにもなっており、学園発展に不可欠なものではないかと思われまます。石碑の裏には、「いすみ学園発展祈念」と刻み、学園発展を祈り念じています。

ここを通る人が、この記念碑を見ていすみ学園利用者に思いを馳せ、更に学園発展を願って頂ければと思つていまます。最後に理事長の祝辞をもつて終了致しました。

お疲れさまでした



井上 秀一

ご縁あつていすみ学園に勤めてから三十七年、充実した時間を過ごして定年を迎えることが

出来ました。振り返ってみると、いすみ学園に来てまず感じたのは、利用者が活き活きと過ごされていること、ご家族に愛されているということでした。利用者の成育歴を見れば、専門の医療機関や教育機関へ通われたり、他施設を見学したり体験させたり、様々な取り組みをされています。また、服薬、食事、歯磨き、服の着脱、トイレ、入浴など、身のまわりのことの習得に多くの時間と情熱を注がれてきたこともわかりました。そんな方々が、多くの選択肢の中からいすみ学園を選んで来てくれていることを考えると、職員として身の引き締まる思いでした。支援(療育)の積み重ねを経て、利用者に出来ることが増えれば一緒に喜び、うまくいかなければ対応を変えながら、毎日が真剣勝負でもあり、楽しい時間でもありました。

利用者に大人としての暮らしを伝えつつ、私も利用者やご家族や関係者の方々に、沢山のことを学びました。皆様に刺激を受け、作業も余暇支援もプロの仕事を追究でき、感謝の気持ちでいっぱいです。

働く仲間にも恵まれました。元々いすみ学園は、自閉症の子供を持つ親御さん達が、親亡き後の生活を考えてつくった施設です。故原井施設長、故土肥理事長、故丸浦事務長をはじめとす

る経営陣が利用者の暮らしの基盤をつくり、専門知識豊富な先輩方が自閉症をはじめとする障がい者支援を教えてくださいました。同期と共に支援を受け継いできましたが、今では知識や技術、意志を受け継ぐ後輩も育ちました。

居心地のよい場所を離れるさみしさもありますが、ひとつの区切りとして晴れやかな気持ちです。今後は故郷の熊本に帰り、これまでで得た経験や知識や技術を活かして、自分にできることを行っていこうと思います。ありがとうございました。



甲木 秀文

大変お世話になりました。皆さんと過ごした日々、とても楽しかったです。皆さんの笑顔に触れる度に、幸せな気分になりました。これからも笑顔と共に、のんびり、でも強く生き抜いて下さい。ずっと皆さんの事、見守り続けます。保護者の皆様、短い期間でしたがお世話になりました。

皆様方のご健勝と、安寧な世が続く事を心から祈念しております。では、また会いましょう。

よろしくお願ひします



奥野 貴成

この度、四月から支援員として働く事となった奥野と申します。以前は介護施設で働いて

いました。その経験を活かしながら、利用者様とコミュニケーションを取り

安心して生活をして頂ける様に精一杯努力していきたいと思っておりますので、どうぞご指導の程宜しくお願い致します。



皆川 真輝

この度いすみ学園の新しい職員になりました皆川です。前職は造園や工場勤務で施設での仕事は初めてです。今まで経験した事のない職種ですが利用者の皆様が安心して過ごせるように精一杯仕事を覚えて先輩職員の方々と協力してしっかりと支援できるよう頑張ります。初めてのことがばかりで至らない点も多いと思いますが一つ一つ改善していきます。よろしくお願いいたします。

「自閉症の人の人間力を育てる」
箸一誠著を読んで



支援員として働き始めて一年が経過しました。利用者さんに対してより良い支援を行い、更に成長する為、今回勉強も兼ねてこの本を読ませていただきました。

感想として、自閉症の方たちに寄り添う姿勢、暖かさが、本の隅々から伝わってきました。自閉症について分かりやすく、具体的な対応策を文中で語られています。また、彼らが抱える問題行動。行動障害をそういう症状だから仕方がないと決めつけるのはよくないと述べていました。問題行動には必ず理由が、引き金になった何かがあり、心理的要因、環境的条件、さらに生理的なレベルにいたる分析を説明されて

いました。観察、推理、仮説を立て、検証し、対応策・解決策を導く。それらを実践した事例を紹介する形式で本を書かれていたので、とても読みやすかったです。

支援する中で利用者さんと関わる上で、どう支援したらいいか、まだまだ分からない部分は多々あります。この本を読ませていただいて、勉強になっただけでなく、自身の支援の軸が出来た気がします。これからもより良い支援を行い、支援で困難に直面した際は、この本の内容を思い出そう心がけます。(支援員 藤平 響)

感謝録

- ・味の素デジタルビジネスパートナー(株)・竹松富士子・(株)ナンカイ・みどり産業(株)・川西一寿・松永尚子・畠中良江・(株)新清ハイツ・(株)松本設備工業・(株)高山商店・渡邊電設・原井利明・内山重浩・(株)辺印刷・(株)フリーバイフリー・川瀬由紀子・山沖美佐江・第一生命保険吉野まゆみ・荒井美緒・町田修一・山内ひかり・渡邊ルミ・君塚弘江・(株)新環境設計・(株)小山商会・江川幸子・Phode dendron・花崎京子・いすみ農業協同組合・関口智也・斉藤みね子・鈴木万里・堀口賢二・松浦大樹・濱田奈緒美・松崎良子・岡崎達也・古滝百子・匿名

編集後記

満開の桜と共に新年度がスタートしました。また、学園の顔である「デハ3455」もリニューアルされ、新しい気持ちで、利用者の皆さんが、新年度を過ごせるように支援していければと思っています。

(担当 是枝・土屋・末吉)

題字は 木澤知之 さんです。